

令和3年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第4号
(7月の発生予想)

令和3年 6月30日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
【水稻】		
葉いもち	量：少ない 時期：遅い	① 本田初発確認は6月30日(平年6月27日)で平年よりやや遅く、発生量は平年並。(－～±) ② BLASTAMによるいもち病感染好適条件は、梅雨入り後、広域的に出現したのは6月19日のみで、その後は一部地域単位で断続的に出現している。(±～－) ③ コシヒカリBLの作付けが多く、発病進展には抑制的に働く。(－) ④ 向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。(±～＋)
紋枯病	量：少ない 時期：並	① 前年の発生量は平年比やや少なく、越冬菌核量は平年比少ないと推定される。(－) ② 6月30日現在、初発は未確認(平年7月5日)で、発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±～＋)
稲こうじ病	感染量：並	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量は平年比少ないと推定される。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 多発生地及び前年に規格外が発生したほ場では、薬剤防除を実施する。		
ニカメイチュウ	量：並 程度：少発生 時期：並	① 6月下旬の被害株率は平年比やや少ない。(－) ② 越冬世代の発蛾盛期は6月第1半旬頃で平年並、トラップ誘殺数は平年比多い地点もあるが全般に平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±～＋)
斑点米カメムシ類	量：並 時期：並	① 6月下旬の畦畔すくい取り調査では、アカスジカスミカメ確認虫数は平年比やや少ない(上越地域は平年比多い)、確認地点数は平年並。アカヒゲホソミドリカスミカメの確認虫数は平年比やや少ない、確認地点率は平年比やや低い。オオトゲシラホシカメムシの確認虫数は平年比やや少ない、確認地点率は平年比低い。(±～－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 ① 水田周辺の畦畔や水田内の雑草管理を徹底し、斑点米カメムシ類の密度低減、水田内への侵入防止に努める。 ② 今後の水稻の出穂期予報に留意し、斑点米カメムシの多発地域及び前年に斑点米被害が多かったほ場では、品種ごとの適期防除に努める。		

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稲】 つづき

セジロウンカ	量：並 時期：早い	① 6月21日に平年比7日早く初確認。(+) ② 6月下旬の発生量は平年並。(±) ③ 梅雨明けまでは再飛来の可能性がある。(±)
ツマグロヨコバイ	量：並 程度：少発生	① 6月下旬の株当最高寄生数は平年比やや少ない。(－) ② 6月下旬の本田すくいとり虫数は平年比やや少ない。(－) ③ 向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予想されている。(±～+)
イネアオムシ (フタオビコヤガ)	量：並 程度：少発生	① 6月下旬の幼虫発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
コブノメイガ	量：並	① 佐渡市のフェロモントラップでは未確認。誘殺数は平年並。(±) ② 梅雨明けまでは飛来の可能性がある。(±)
コバネイナゴ	量：やや少ない 程度：少発生	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～+)

【大豆】

アブラムシ類 (褐斑粒)	量：少ない 程度：少発生	① 6月下旬のジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は平年比やや少なく、その他アブラムシ類の発生量は平年比少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～－)
-----------------	-----------------	--

【なし】

黒斑病	量：やや少ない～並 程度：少発生 (発病葉率1～5%)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
黒星病	量：多い 程度：中発生 (発病葉率6～15%)	① 6月下旬の発生量は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>詳しい防除対策については、6月30日付け注意報第1号(ナシ黒星病の多発生に注意)を参照のこと。</p>		

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【なし】つづき

セイヨウナシ 褐色斑点病	量：やや少ない～並 程度：少発生 (発病葉率1～5%)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 ① 発病葉、発病果及び発病枝は二次伝染源となるので、見つけ次第剪除して土中深く埋める等適切に処分する。 ② 梅雨期間の降雨は感染に好適であるため、散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。		
ナシヒメシクイ	量：並 程度：少発生 (被害果率1～2%)	① 6月下旬現在、被害果は認められず発生量は平年並。(±) ② フェロモントラップ誘殺数は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 ① 被害果は見つけ次第摘除して土中深く埋める等、適切に処分する。 ② 防除時期は誘殺盛期直後である。		
ハマキムシ類	量：並～やや多い 程度：少発生 (被害葉率1～15%)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② フェロモントラップの誘殺数は平年並～やや多い。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 第2世代幼虫の散布適期は、第1世代成虫誘殺最盛期の14日後である。		
アブラムシ類	量：並～やや多い 程度：中発生 (寄生葉率6～15%)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
ハダニ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率1～15%)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 ① ハダニ類は、発生が多くなると防除が困難となるため、園内をよく観察し発生初期に防除を行う。 ② ハダニ類は薬剤抵抗性がつき易いので、同一殺ダニ剤の使用は原則として年1回とする。		
コナカイガラムシ類	量：並	① 6月下旬はコナカイガラムシ類の被害は認められず、発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 ① 樹皮の隙間、窪み、枝の切り口等をよく観察し、卵のうや虫の寄生が認められた場合は、ブラシ等でこすり落とす。		

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【なし】つづき

果樹カメムシ類	量：やや少～並	① 6月下旬現在、被害果は認められず、発生量は平年並。(±) ② 予察灯での誘殺数は平年比やや少ない。(－) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
---------	---------	---

【もも】

せん孔細菌病	量：やや多い 程度：中発生 (発病葉率 11～30%)	① 6月下旬の発生量は平年比やや多い。(＋) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 ① 収穫期が近づき薬剤防除が困難となることから、以下の耕種的防除を実施する。 ・本病は風雨により発病が助長されるため、防風網の設置、補修等、防風対策を行う。 ・新梢に発生する夏型枝病斑は、当年の重要な伝染源となるため見つけ次第発病枝ごと剪除し、土中深く埋める等適切に処分する。 ② 次作における伝染源量を減らすため収穫後の秋期防除を必ず実施する。		
灰星病	量：並 程度：少発生 (発病果率 1～5%)	① 6月下旬現在、発病果は認められず、発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 ① 発病果は見つけ次第剪除し、土中深く埋める等適切に処分する。 ② 重点防除時期は収穫 20 日前頃～収穫期である。		
モモハモグリガ	量：やや少ない 程度：少発生 (被害葉率 1～15%)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② フェロモントラップへの誘殺数は平年比少ない。(－) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 第3世代幼虫の防除時期は7月上旬と推定される。		
ナシヒメシンクイ	量：並	① 6月下旬の新梢被害の発生量は平年比やや少ない。(－) ② フェロモントラップ誘殺数は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～＋)
【防除上の留意事項】 被害新梢（心折れ）や被害果実は見つけ次第剪除して幼虫密度を減らす。		

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【もも】つづき

果樹カメムシ類	量：やや少～並 程度：少発生 (被害果率1～2%)	① 予察灯での誘殺数は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±～+)
---------	---------------------------------	---

【ぶどう】

晩腐病	発生量：並 感染時期：並	① 前年の発生量は平年比やや多く、越冬伝染源量も平年比やや多いと推察される。(＋) ② 6月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ③ 孢子飛散時期は6月第6半旬と推定され、平年並(4月1日起算、1400日度)。(±) ④ 向こう1か月の降水量は平年並または多いと予想されている。(±～+)
【防除上の留意事項】 重点防除時期は、6月中旬～7月中旬である。		
べと病	量：並 程度：少発生 (発病葉率1～10%)	① 前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推察される。(±) ② 6月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の降水量は平年または高いと予想されている。(±～+)
【防除上の留意事項】 ① 発病後の防除では効果が低いので、予防散布を徹底する。 ② 発病葉は二次伝染源となるため、見つけ次第剪除し土中深く埋める等適切に処分する。 ③ 散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。		
褐斑病	量：並 程度：少発生 (発病葉率1～10%)	① 前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推察される。(±) ② 6月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の降水量は平年並または多いと予想されている。(±～+)
フタテンヒメヨコバイ	量：並 程度：少発生 (被害葉率1～25%)	① 6月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並または多いと予想されている。(±)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【かき】

円星落葉病	感染量：並 感染時期：並	① 前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推察される。(+) ② 向こう1か月の降水量は平年並または多いと予想されている。(±~+)
チャノキイロアザミウマ	量：並	① 6月下旬の被害果発生は未確認。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±~+)
カキクダアザミウマ	量：並	① 6月下旬の被害葉発生は平年並。(+) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±~+)
果樹カメムシ類	量：やや少~並	① 予察灯での誘殺数は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。(±~+)

【すいか】

つる枯病	量：並 程度：少発生 (発病葉率1~25%)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並みか多いと予想されている。(±~+)
炭疽病	量：並~やや多い 程度：少発生 (発病果率1~25%)	① 6月下旬の発生量は平年並~やや多い。(±~+) ② 向こう1か月の降水量は平年並みか多いと予想されている。(±~+)
アブラムシ類	量：並~やや多い 程度：少発生 (寄生葉率1~25%)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。
ハダニ類	量：並~やや多い 程度：少発生 (寄生葉率1~25%)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。
オオタバコガ	量：並 程度：少発生	① 6月下旬の発生量は平年比少ない。(－) ② フェロモントラップ総誘殺数は平年比やや少ない~並。(－~±) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。

【秋冬ねぎ】

べと病	量：多い 程度：中発生 (発病株率11~30%)	① 6月下旬の発生量は平年比多い。(+) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。
さび病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度1~5)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【秋冬ねぎ】 つづき

黒斑病・葉枯病	量：並 程度：少発生 (発病度 1~20)	① 6月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±~+)
軟腐病	量：並 程度：少発生 (発病株率 1~5%)	① 6月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±~+)
ネギハマグリバエ	量：少ない 程度：少発生 (被害度 1~10)	① 6月下旬の発生量は平年比少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。
ネギアザミウマ	量：並 程度：多発生 (被害度 21~30)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>・ 定期的に防除を行い、密度抑制に努める。その際、作用機構の同じ薬剤の連用は避ける。</p>		
シロイチモジヨトウ	量：並 程度：少発生 (被害株率 1~10%)	① フェロモントラップ誘殺数は平年比やや少ない~並。(－~±) ② 6月下旬の被害は未確認で、平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。

【ユリ(球根養成)】

葉枯病	量：並	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。(±~+)
アブラムシ類	量：並	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。

【その他】

【アブラナ科野菜】 コナガ	量：並~多い	① フェロモントラップ誘殺数は平年並~多い。(±~+) ② 向こう1か月の気温は平年並か高く(±~+)、降水量は平年並か多い(±~-)と予想されている。
------------------	--------	---

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多
いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発
生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2：「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、
(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：6月1日～8月31日】

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使
きましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の
生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしま
しょう。

新潟県病害虫防除所業務課

電 話：0258-35-0867

F A X：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

【参考】北陸地方 1か月予報（6月26日から7月25日までの天候見通し）
 （新潟地方气象台：令和3年6月24日発表）

<予想される向こう1か月の天候>

前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並が多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込みです

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
 週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
 2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
 3～4週目は、平年並の確立40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	20	40	40
降 水 量	20	40	40
日照時間	40	40	20

<気温経過の各階級の確率（%）>

	低い	平年並	高い
1週目（6月26日～7月 2日）	20	40	40
2週目（7月 3日～7月 9日）	20	40	40
3～4週目（7月10日～7月23日）	30	40	30